

青春やったことがなんかどんどんできなくな
っていくやん。そういうのが結構寂しくって

語り手 長澤佳凜(高校十期生 半導体メーカー)

聞き手 山本結愛

*

―長澤さんの今までの人生の中で、印象に残ったことを話していただ
きたいんですけど、何かありますか？ 立守でも大学でも現在でもどん
なことでも大丈夫です。

沢山あるけど、立守生活の中で印象的なのはバトントワリングでの活
動かなと思います。元々運動好きやったし、クラシックバレエとか習い
事もたくさんしてたから、自分はそんなにメンタル弱くない方なのか
な？ って思ってたんですけど、バトン部は結構上下関係が厳しくつ
て。コーチも顧問の先生もめっちゃ生徒のことを思ってた接してくだ
さる分、本当に厳しくて。メンタル的にも身体的にもめっちゃしんど
くて、多分人生ではじめてきついつて思った三年間でした。でも一緒
に乗り越えた部員たちとは本当に家族みたいな関係になって、今でもた
まに部活見に行ったり、社会人になってからも年に一度集まったりして
います。なんかほんまに青春やったなって思います。

―中学の時は何の部活してたんですか？

テニス部に入っていました。当時はバトン部が中学になかったの。テ
ニスは当時結構緩くて、習い事のバレエをメインにしていました。なの
で、テニス部やのにテニスのルールしっかりわからんまま終わっちゃっ
て(笑)。でもクラシックバレエをメインでできたから、それが逆に高
校の活動をバトントワリング部とかでも活かせたのかなって思います。
―へえ。なんでそのクラシックバレエを辞めて、そのバトンに入られた
んですか？

立守のオープンキャンパスか入学式かちよつと忘れたんですけど、バ
トン部の方の演技を市民ホールで見える機会があったんですね。入学する
前に。そこでもう鳥肌が立って。絶対に私もここで踊りたいと思った
の。でも当時は、中学にバトン部なかったの、高校からは絶対入ろう
と決めてました。

―あ、もう決めてたんですね。

そうそう。で、中学の終わりがぐらいから中入生が、体験入部として入
ることができたので。ちよつと先に入部させてもらって。それから三年
間入っていました。

―大学ではバトン続けられたんですか？

大学はバトンしてないけど、チアダンスとか創作ダンスとか結構色々
しました。やっぱり身体を動かしたり、表現することが好きだったの
で。ダンス系のサークル何個かと、アカペラと軽音サークルに入ってま
した。なんか入るサークルとか決まってる？

―今吹奏楽部なんですけど、ちよつと変えたいなと思って。小学校と
かバレーボールしてたんで、それとかにしようかなって思ってた。

いいね、バレーとかめっちゃサークル数多いかも。学部とかもう決
まってる？

―いや、全然まだで。秋ぐらい、十一月ぐらいに確実に決定するみたい
な感じで、まだまだです。

―行きたいところあるん？

―今進路めっちゃ迷ってて。けど理系なんでBKC(立命館大学びわこ
くさつキャンパス)がいいなみたいな感じなんです。なんで経営にさ
れたんですか？ 大学。

―当時、経営学部めっちゃ人気あって。OIC(立命館大学大阪いばら
きキャンパス)も新しく綺麗だったから、とりあえずOICに行きた
いなっていう簡単な考えで人気な経営に挑戦してみました。

―経営、今年も人気で、もうずっと人気みたいだね。

―やっぱそうなんよ。なんでやろね。

―経営でどんなことしたんですか？

あんまり記憶ないけど、一、二回生の時は、なんかマネジメントについて学んだり、経営者の講演を聞いたり、テスト前だけ教授の本を読んだり。テストを受けなくても単位取れる授業もあったから、勉強はあんまりしてないかな。でもそれよりもサークルを五個ぐらい掛け持ちしてて。そっちメインの生活になってました。

*

立守ならではの経験

なんかここ久しぶりに来てめっちゃ懐かしい。蘇ってきた。やっぱりいいなと思う！

―高校生活でそのバトンとか以外で印象に残ってることって他にもありますか？

毎日の学校生活が本当に楽しかった。文化祭とか体育祭の団アピールとかって今もあるかな？

―あります。あります。

団アピ(体育祭で行う団ごとのダンスアピール)の振り付けとかを結構させてもらって、最後の学年の時も団長と一緒に構成とか振り付けとか考えて、自分なりに頑張ってた気がする。そして最優秀賞を取れた時は、なんか涙出るぐらい嬉しくて。それも、同じ団にバトン部一人しかいなくて。なんか一人で指揮を取るのって難しそうやなってめっちゃ不安やったんやけど、途中から団員みんながついてきてくれるようになってすごく嬉しかったし、心が熱くなった。文化祭もたしか「アニー」を劇でしたんよ。アニーって結構踊ったり歌ったりする場面が多くって。だから、振り付けも自分がやりたい！って張り切ってた記憶がある。市民ホールでクラスメイトみんなとステージに乗って劇ができるのって、立守ならではのすごい貴重な経験やと思ったから。部活と両立するのは、ちよつと難しかったけど、クラスメイトのことを思って振り付けしたり、皆などと歌やダンスの練習をしたのはめちゃくちゃ良い思い出になってます。皆んなの良さをたくさん知ることができました。

―やっぱり劇感動しますよね。

うん。今も劇あるんや。あ、なんかさ、AP(立命館大学に行って授

業を受けるもの)ってある？

―あります。あります。

行ってる？

―ちよつど行ってます。

なんか自分、京都の会社なんやけど、立守バス乗り場が一緒で。なんか制服来た立守の子よく見る。衣笠行ってる？

―私BKなんですよ。私理系なんです。文系のクラスが衣笠です。二クラスあって、その二クラスが毎週木曜日行ってます。

木曜日。ちよつと頭いいクラスみたいな感じなんかな。

―そうです。そうです。

すごい。そうなんや。なんかその時さ、自分が高校の時さ、メイクとか絶対あかんし。スカート短いとかも絶対あかんくて短い子とかもあんまりおらへんくて。でも最近立守の子をたまに京都とか見かけると、みんなスカート結構短いしメイクもしてはったりするし、めっちゃ進化してるって思ってる。

―今年から染めるんもオッケーになったんですよ。

え嘘。髪染めのオッケーになったの？

―校則をなんかも廃止しますみたいな感じで学校側が言ってる。ピースも開けてオッケーで。今年のちよつど六月の中旬とかに髪もピースもネックレスも全オッケーになって。

やばい！

―そうなんです。髪染めてる子とか普通にいます。

マジで。ええ、衝撃。そうなんや。スカートの長さも別になん？

―いや、なんかそれについてはあんま言ってるはへん感じなんですけど、でもみんな結構折ったりみたいな感じで。でも先生はあんま何も言わへんみたい。式典時とか終業式とかはちよつと厳しく言われてたんですよ。けど、なんかそれも校則なくなったからこないだ終業式があったんですけど、そんな時も別に何も言われないみたい。

―すごい衝撃的かもしれない。そうなんや。ええ。すごい。いいね。楽しそう。キラキラしてるね。

―でもミスコン取ってらっしゃったんですね。

え、そう。え、なんで知ってるん？ でもなんかそれもうほんまにたまたま。

―先生から頂いてた紙に書いてて。すごいです。

あれ私そんなこと書いてたか。大学一回生の時に、ミスコンどう？とスカウト的な感じなのかな、声かけてくださった方がいて。色々ご縁があり、出るようになりました。それに伴い、インスタのアカウントも作らないといけなかったり、色々練習やトレーニングもあって、様々な活動もしたかな。

―あ、色々あるんですか？

そうなの。でも、その時はほんまにミスコンに出たくなさすぎて。そういうの出るのってちよつとなんだろう、周りからしたら、え、なんで？ みたいな。なんか思われそう、とか色々考えちゃってました。なので、ミスコンに出ることは友達にはずっと黙ってた。家族にはせっかく声かけてもらったんだし、って背中を押してもらったけど。実は辞退しようか迷ってたくらい。大会当日も、スピーチとか、特技の披露とか、ウォーキング審査とか、色々あって。でも、クラシックバレエやバトンをしてたからか、人前でもあまり緊張せずに自分を表現することができた。それが奏功してグランプリを取ることができたの。自分は運が良かっただけと思ってる。でも、メイクとかも大学になるまでしたことなくて、おしやれも興味なくてって感じやったから、グランプリっていうキラキラした結果は、逆に重くてなんか苦しく感じたかも。周りからは、すごいね、おめでどうと言ってもらえたけど、グランプリをとったからといって、自分の中の自分は全く変わってないし、メイクもオシャレも全然だし、周りからの期待やイメージと、自分自身とで結構ギャップが生まれてるなって思った。当時は、自分が一番グランプリという肩書きについていけなかったのかなって思います。

―なんかミスコンやって変わったなと思うことってありますか？
発言することって大切やなって思った。最初は、ミスコン用のインスタのアカウントを作ることが嫌で、何も投稿してなかったんだけど。グ

ランプリをいただいてからは、大津市の一警察署長をさせてもらった。滋賀県知事に表敬訪問とかもしたり、滋賀県が誇るお酒の会社とコラボしてウイスキーを販売したり、琵琶湖こるというイベントで司会をさせてもらったり、ほんの少しではあるけど、自分のことを知ってくださってる人がいて、影響を受けてくださってる方がいることを知りました。そういう経験をインスタに投稿し始めると、小さく新聞とかに載せてもらえたり、声をかけてもらったり。大好きな地元滋賀県のために、ちよつとだけ頑張れたんかなって思うと嬉しくなりました。なんか、発信したり行動することって大切なんやなって気づけた経験になりました。

*

現在の仕事までの過程

―そのミスコン取って、その後、将来何なろうかなとか考えたんですか？ そのモデルとかは。

それは全く考えてなくて。ダンスとかそういう音楽とかでステージに乗るとかはまだ慣れてるけど。人前に立つのは苦手。メディア関係は絶対になくて、普通に就活しようと考えてました。ずっとルームっていう半導体の会社に行きたかったから、そこを第一に目指して就活してました。今は、エンジニアの方と一緒にって開発のお手伝いをしたりとかもしてるし、事務もしてる。

―そうなんです。今の会社ってその経営、大学の経営と関係はありますか？

全然関係ない。経営もほんまにただOICやし行きたいなぐらいな感じのノリで行っちゃってるから、本当に学んだことってそんなに覚えてなくて。でもなんか自分的にはプライベートをちよつと充実させたいなっていうのが社会人になってからもあったから。そういうのもあって、福利厚生とかも見ながら就活してた。中学の頃から憧れだった先輩も、たまたまルームで働かれているのを知って。それもあってさらにルームに興味を持って、入社しました。

―その先輩とはどういう繋がりがだったんですか？

部活も違うので、そんなに繋がってはなかったんですけど、行事の際に写真を撮ってもらったり少し話したりした記憶がある。勝手に憧れてた感じかな。

―じゃ、あんま大学は考えすぎないでも大丈夫な感じですか？

あ、そうやね。考えすぎんでもいいかもしれん。

―私めっちゃ考えちゃって。今、全然将来像がないから、大学をめっちゃ迷うみたいなことになってます。

そっか。でも大学でやってたことと全然違う部署に配属されたりすること全然あり得るしね。会社入って自分の経験を活かせる人もいるけど、そうじゃなくて一から学ぶ人も多いかも。

―そうなんですネ。

なんか今やりたいことを直感で選んでもいいと思う。将来やりたいことって難しいよね。

―その会社入ってからその部署を決めるのは自分で志望とか出す感じじゃないんですか？

えっと、そういうのよりも面談とか繰り返し返して適正を見られて配属されるのが多くて。自分は理系の部署が良くて。理系の人と働きたいっていうのがずっとあったから。理系の部署に行きたいですって言ったらそれは叶った。

―なんで理系の人と働きたかったんですか？

自分はめっちゃ文系やけど理系の子って素敵だなって思う。なんか自分と違う視点から話してくれるし。バトン部の時も一番仲良かったのが理系の子やねんけど。その子もなんか自分が部活でしんどいってなった時に違う視点からアドバイスくれたりとかした。行動力とかもすごいあっていつも刺激受けて。全員が全員ってわけじゃないかもしれないけど、自分に厳しい人が多くない？ 自分の周りがたまたまかもやけど。そういう経験もあってか理系の方と働きたいってずっと思ってた。―すごい。その会社入ってから新たに学んだこととか印象に残ってることってありますか？

自分の会社の半導体が、世界中のこういうところで使われてます、とか、〇〇が開発されました、とかの記事をニュースとかでみると嬉しくなる。自分が深く関わった内容のことじゃなくても、その一部に携われたことがちょっと誇りに思ったりして。なんかこれからは仕事頑張ろうとか思えたりします。一緒に働く周りの方への尊敬の思いは、ずっとあるかな。ほんまにすごい優秀な方に恵まれて働けてるなって。将来どんな働き方したいとかある？

―私もめっちゃ自分の好きなことするのも大事やなと思ってるんですけど。やっぱ生活結構重視したくて。ご飯食べるのとか、好きなことするのとかは大事にしたいなって思うから。めっちゃご飯好きなんです。

わかる、わかる。美味しいご飯を食べるために頑張ってるって働きたいなみたいな感じあるよね。

―大人になってなんか楽しいこととかありますか？

学生の時とは楽しみ方が変わってきて。私も食べるの大好きなので、飲み会とか同期で行ったりとかするのもたかも楽しいし、美味しいものもたくさん食べてます。あ、あとこの前お家を建てたの。結婚して。今はお家の家具見に行ったり、キッチンで料理したりするのが一番楽しいかな。

―めっちゃいいですね。

家に帰るのが楽しいかもしれん。

―憧れます。結婚されてるんですね。

結婚してます。去年の六月、ちょうど入籍して一年ぐらい経ちました。

―お仕事はこれからも続けられるんですか？

今のところは結構働きやすい部署やから続けたいなと思う。今後のライフステージによつては、その時にまた考えるかも。旦那さんも立命館大学やからずっと大学から一緒に。

―じゃ、ずっと大学時からお付き合いされてるんですか？

そう大学から付き合ってた、社会人になって結婚しました。次、大学よな。理系って何学部になるん？

―情理とか理工が多分多いんですけど、私コンピュータ苦手で。あんまそっちは進みたくないなと思ってて。

理工は建築とか？

―あ、そうです。建築めっちゃ人気です。今年。もうそろそろ学部とか決まってくる感じが。

―そうです。そうです。

へえ。すごいね。理系かつこいい。

―全然です。みんな周りが賢すぎて。大学と高校どっちが楽しかったですか？

やっぱ高校。人によつてはなんかバイトとかしてお金を持ちたい、持つて色々自由したいって子とかは大学の方がいいって言うけど、自分はいんまそういうのはなくって。なんかもう文化祭とか体育祭とか、そういうちよつと青春やったことがなんかどんどんできなくなっていくやん。そういうのが結構寂しくって。今でももう戻りたいぐらい。学校生活楽しんでね。

―ありがとうございます。また今度九月に文化祭あるんで良かったら来てください。

【感想】

長澤さんのお話を聞いて、大学進学についてあまり考えすぎなくてもよいのだと感じ、心が軽くなった。大学に入ってからでも、大人になつてからでも、自分の好きなことや興味のあることに挑戦できるという考え方に共感した。高校時代の思い出が一生残るという言葉にも深くうなずいた。残り少ない高校生活をもっと充実させたいと思うと同時に、長澤さんのように仕事とプライベートを両立し、自由に生きる大人になりたいと強く思った。



右：語り手 長澤佳凜さん
左：聞き手 山本結愛